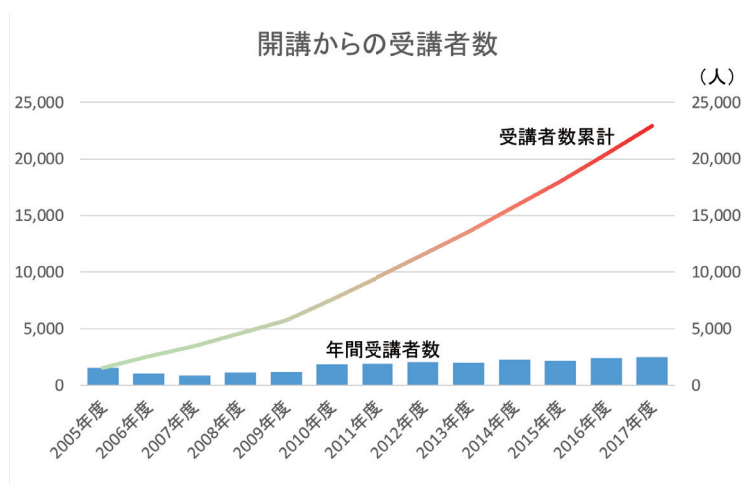


ビジネススクール

－企業経営と人財を考える－

2005年から13年間続けてきたビジネススクールは、その時々企業のを取り巻く環境・社会情勢・各種制度の変化に伴い、常にニーズに合わせてアジャストして実施しています。



■ 経営者養成コース

モノ、コト、ヒトの未来が変わる。AIやRPAの進化など、人の仕事はどう変わっていくのか……。企業統治強化の流れの中で、会社はどう変わっていくのか……。高年齢であっても高齢者でない人たちが活躍する社会をどう向かえるのか……。未来を先読みし、100年企業を実現するために、次世代経営者を創出するための社内トレーニングを実施しています。

〈2017年度カリキュラム〉

開講月	講師	テーマ
4月	常盤 文克氏 花王株元会長	構図思考で考える経営の哲学
5月	中澤 幹彦 ハルナプロデュース社長	新しい価値を創造する経営
6月	中澤 幹彦 ハルナプロデュース社長	逆転の発想と自助努力について
7月	(株) インターリスク総研	地震 BCP 初動訓練の実施について
8月	中澤 幹彦 ハルナプロデュース社長	経営者として危機管理 (海外・外的リスク)
8月	梅野匡俊氏 横浜国立大学客員教授 学長特任補佐講師	顧客との価値共創
10月	須齋 嵩氏 群馬大学客員教授 宇都宮大学教授	今日の問題を考える
12月	中澤 幹彦 ハルナプロデュース社長	心のゆとりと豊かさを持った経営論
1月	ピーター・トーマス氏 ノマード・テクノロジー・ラボ Founder & CEO	成長をさせるマーケティングとは
3月	有田 喜一氏 群栄化学工業代表取締役会長	100年企業に向けての次世代経営者の創出

■ 中堅社員コースからリーダーシップ養成コースへ

会社の中核を担う社員のリーダーを養成する位置付けとして開講し、次世代のリーダーの育成に取り組んでおります。能力の発揮を支援するため、コース名称を一新して取り組んでいます。

■ プライマリー（基礎）コースからプロフェッショナル養成コースへ

生産の基礎、衛生の基礎、環境の基礎など、永年のビジネススクールで積み重ねてきたものを糧として、真のプロフェッショナルを養成するコースに変更しました。

■ 経営・マネジメント養成特別コース（和歌山プラント）

グループ理念を共有化するため、新規にグループの仲間入りを果たした和歌山プラントの幹部社員を対象に、集中的に実施しています。

■ ウィンタースクール

その時々テーマについて、初冬の1日を使い、ゆっくり考える機会を提供しています。

〈2017 年度カリキュラム〉

講 師	テーマ
■青木清志（ハルナグループ名誉会長・創業者） ■青木麻生（ハルナビバレッジ（株）代表取締役社長グループ CEO） ■須齋 嵩 氏（ハルナビバレッジ（株）社外取締役・群馬大学客員教授・宇都宮大学教授） ■岡俊明 氏（ハルナビバレッジ（株）社外取締役、サッポロビール（株）元代表取締役社長、群馬大学客員教授） ■小出信介 氏（ハルナビバレッジ（株）取締役・小出公認会計士税理士事務所所長）	審美眼が経営を際立たせる ハルナグループ経営の歩みと将来ビジョン 温故知新 飲料の歴史を振り返り、挑戦しよう 飲料業界のこれまでとこれからを見直す 組織再編後の将来像 ディスカッション 「ウィンタースクール講義を受けて、テーマについて話し合う」



客員教授紹介（講義開催順、役職は当初）

田村 泰彦 様 国立大学法人群馬大学 名誉教授 国士館大学 経営学部 松島 茂 様 通商産業政策史編纂委員、編纂副主幹 東京理科大学 大学院イノベーション研究科 教授 岡 俊明 様 国立大学法人群馬大学 客員教授 アイ&オーマーケティング 代表 サッポロ飲料株式会社 元代表取締役社長 須齋 嵩 様 国立大学法人群馬大学 客員教授 国立大学法人宇都宮大学 客員教授 後藤 新 様 群馬県議会議員 財部 誠一 様 経済政策シンクタンク ハーベイロード・ジャパン 代表 経済ジャーナリスト 岸井 雄作 様 毎日新聞社 東京本社編集局 編集委員 杉 伸一郎 様 株式会社イトーヨーカ堂 元常務取締役 株式会社ヨークマート 元代表取締役社長 津田 晃 様 野村證券株式会社 元代表取締役専務 株式会社ジャフコ 元代表取締役副社長 日本ベンチャーキャピタル株式会社 元代表取締役社長	三浦 真吾 様 NHKコンピューターサービス株式会社 元代表取締役社長 杉山 学 様 国立大学法人群馬大学 社会情報学部 教授 跡田 潔 様 ハルナグループ 技術顧問 株式会社ハルナビバレッジ研究所 元代表取締役社長 小林 欣司 様 ハルナビバレッジ株式会社 元監査役 群馬銀行 元支店長 群馬キャピタル株式会社 元取締役 野口 恒 様 フリージャーナリスト兼ライター 群馬大学社会情報学部特任講師 情報化白書編集専門委員 日経事業出版社の編集顧問などを歴任 鈴木 守 様 国立大学法人群馬大学 前学長、医学部長 国立大学法人群馬大学 顧問、名誉教授 上武大学 前学長 井口 征昭 様 株式会社西友元取締役 株式会社スミス元代表取締役社長 株式会社そごう元取締役 食品流通研究会会長 梅野 匡俊 様 国立大学法人横浜国立大学 客員教授 大学院国際社会科学研究院 成長戦略研究センター 青山学院大学理工学部 客員研究員 池永 裕 様 公立大学法人前橋工科大学 工学部生物工学科 元教授	下田祐紀夫 様 公立大学法人前橋工科大学工学部 地域連携推進センター 特任教授 鹿島 保宏 様 鹿島エレクトロ産業株式会社 代表取締役社長 和田 一廣 様 株式会社和田マネイジメント 代表取締役社長 有田 喜一 様 群栄化学工業株式会社 代表取締役社長 常盤 文克 様 花王株式会社 元代表取締役会長 元代表取締役社長 深山 隆 様 味の素ヘルシーサプライ株式会社 代表取締役社長 小出 信介 様 小出公認会計士税理士事務所 代表 大橋 祥男 様 群馬県中小企業振興公社 元プラットフォームサポーター 渡辺 幹夫 様 株式会社グローイング・シーズ代表取締役社長 ピーター・トーマス様 ノマード・テクノロジー・ラボ Founder & CEO Daymon Worldwide KK、元代表取締役社長
---	--	---

WORK & LIFE BALANCE

社員の多数の幸せを創出し、100年企業を目指すためにワークとライフの調和、“ワーク&ライフ・バランス”をいかに成立させるか。働く人の暮らしというのは、24時間の中で、日常の個人の生活、また会社における仕事の現場での生活があります。「ワークとライフの調和の中で、リタイアする年齢は自分で決める」。そのために必要な共通した理念、ルールを作り上げていく必要があります。

現状分析と政策検討に対するこれまでの取り組み

2015年10月21日にキックオフ会議が行われ、プロジェクトの目指す姿が明確に示されました。まず、従業員の現在の暮らしぶりや意識についてアンケートを行い、問題点を明確にするとともに、グループ各社から21名のメンバーを選定し、2017年1月11日までの24回の委員会を通して課題を掘り下げ、解決に向けた討議と施策の実行に取り組みました。

政策提言

～より良い暮らしのために、より良い政策を～
業務と他の時間の拮抗から幸福度を測る

1. 就業の質・技能と教育、労働適応能力支援、
2. 生活の質・健康状態、仕事と個人時間のバランス
3. 環境の質・大気汚染、現場の質的状況
4. 気力の質・健康寿命、人生設計
5. 経済の質・所得と資産、仕事と報酬

テーマ

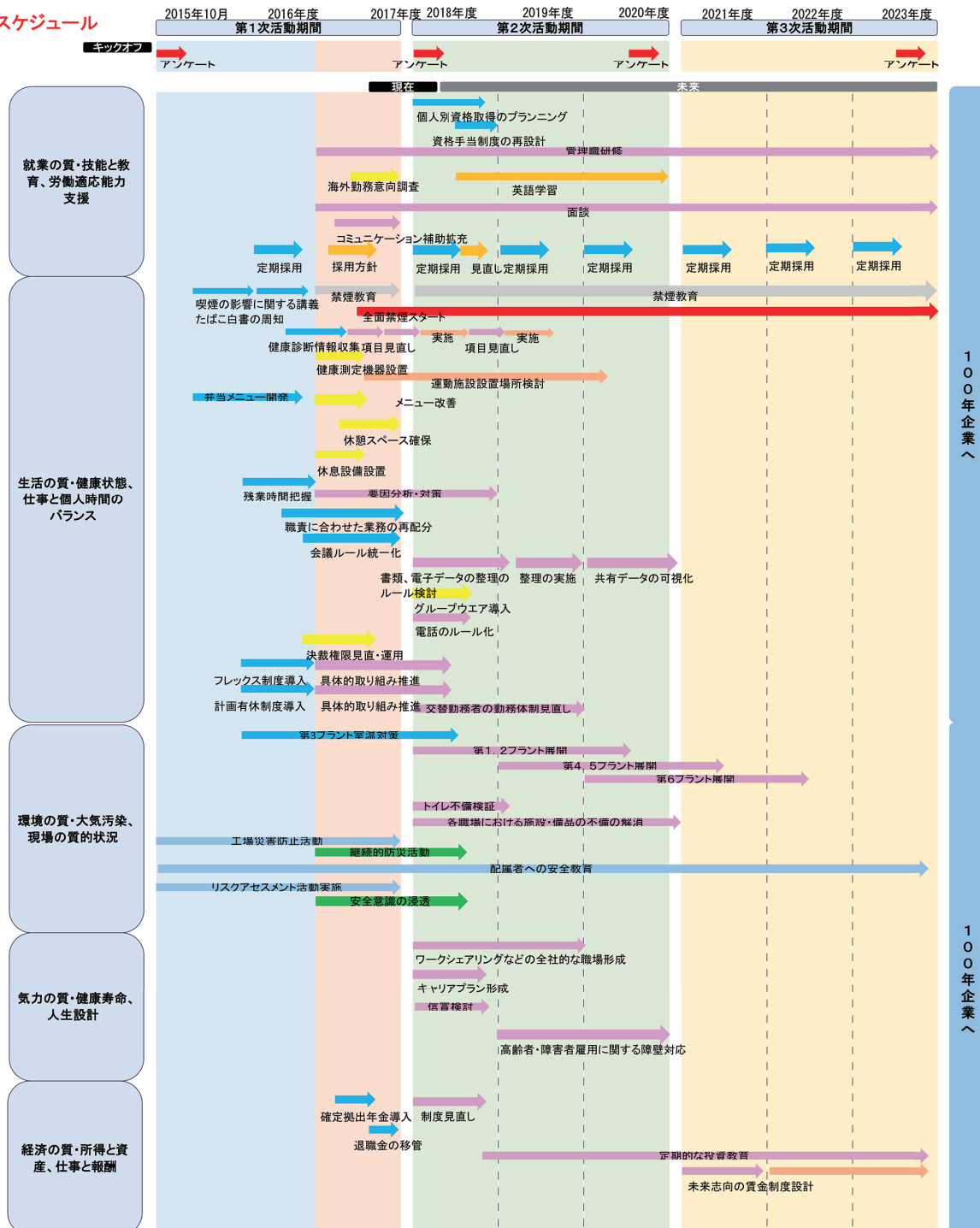
定年、年金、福利・厚生、教育、人間工学、健康管理

今後の取り組み

2015年10月のキックオフから、2018年3月までの30ヶ月を第1次活動期間とし、その途中段階として、今回、未来構想委員会編成局にて提言をまとめました。この活動において明らかにした課題と、提言に基づく活動は、将来に向けて継続していく息の長いテーマとなります。

今後につきましては、社員全員の意識の変化や課題への対応策について、再度アンケートを行い、それ以降も3年おきに定期的に効果の確認を行う予定です。

スケジュール



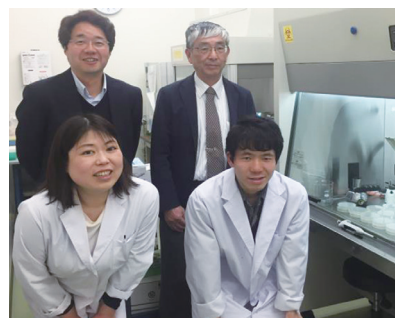
ウェルネスサイエンス研究所

ウェルネスサイエンス研究所は、ハルナグループの将来を見据え、自由な発想のもと、新しい価値を創造することを目的とする研究機関であります。社会的インパクトが高く、社内外に大きな影響をもたらすことができる組織として活動してまいります。

2017年度研究事業内容

■菌を抑制する天然物原料の探索

ペットボトル容器における茶系などの中性飲料は、菌の抑制が重要となります。それら菌を抑制する天然物原料は少なく、新規原料を見つけだすことは利用価値が高いものとなります。2017年度、163種から抗菌性の高い原料2種の選抜に至りました。この事業は、ぐんま新技術・新製品開発推進補助金にて実施いたしました。



■機能性表示食品、特定保健用食品の研究開発

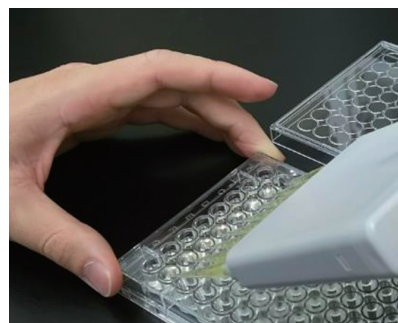
健康食品に位置づけされる、機能性表示食品や特定保健用食品の数は著しい増加傾向にあります。研究所においても、本年度4商品について申請手続きを実施しております。今後も高齢化社会を見据え、継続した機能性表示食品、特定保健用食品の研究、商品化に取り組んでまいります。

■抗酸化原料の探索

ヒトの老化や物質の酸化は、自然界に存在する酸素（活性酸素）により引き起こされるといわれております。これら酸化を抑制する原料は、健康をキーワードとした市場での利用価値が高く、未来原料として有益です。これまで170検体を分析してまいりました。

2018年度研究事業内容

研究所では、継続して上記の研究開発を進めてまいります。本年度から新たな取り組みとして、21世紀病（生活習慣病）の予防食品についての研究開発も進めてまいります。現代病といわれる生活習慣病の患者は年々増加しており、さらに予備軍も同様な傾向です。当研究所では、腸内フローラ（腸内に存在する細菌群）に注目し、その腸内フローラに良い影響をもたらすような原料開発、商品設計を進めています。実際には、商品設計した食品がどのようにヒトの腸内フローラに変化をもたらすかを解析していきます。さらに腸内フローラの影響は生活習慣病だけでなく、いろいろな病気に影響を及ぼすといわれていますので、多様な結果も期待できます。



商品開発Unit

食品へのニーズは多様し、さまざまなシーンに応えることが求められています。商品開発 Unit ではお客様や市場のニーズに対応した「おいしい商品」はもちろんのこと、一歩先を見つめながら「生活のプラスになる商品」「時代が求めている商品」「おどろき・楽しさを感じていただける商品」を皆様にお届けすることを目標に日々開発に取り組んでおります。

プロセス①商品設計～試作

プロセス②検証～製造

商品設計

原料調査

試作品作製

各種検証

生産工程

商品コンセプトをもとに商品設計の構築を行います。商品の基本となる「皆様に安心してお飲みいただける安全な商品」を作り上げるスタート地点として、原材料の安全性を精査し原料選定を行っております。選定された素材を使用し、味のおいしさを追求しています。

「賞味期限の設定」「安全性試験（官能・物性試験）」「適正表示」など、商品設計の安心・安全確認を行っています。



試作風景



打ち合わせ風景



打ち合わせ風景

高付加価値商品として

■特定保健用食品（規格基準型）

■機能性表示食品

の開発も行っています



機能訴求型

- ・オーガニック
- ・野菜ジュース
- ・スムージー
- ・プロテインドリンク
- ・美容ドリンク
- ・小腹満たしドリンク etc.